

In brief

A look at current financial reporting issues

No. INT2017-11
19 September 2017

IASBが「重要性がある」の定義の公開草案および重要性の判断の行使に関する実務記述書を公表

論点

公開草案: 「重要性がある」の定義

国際会計基準審議会 (IASB) は、2017 年 9 月 14 日、「重要性がある」の定義についての公開草案 (国際会計基準 (IAS) 第 1 号および IAS 第 8 号の修正案) を公表しました。

IAS 第 1 号「財務諸表の表示」および IAS 第 8 号「会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬」の修正案、およびその結果生じるその他の IFRS への一連の修正は、(i) IFRS および財務報告に関する概念フレームワーク全体において「重要性がある」の定義を整合させ、(ii) 「重要性がある」の定義の説明を明確化し、および (iii) IAS 第 1 号における重要性のない情報に関する現行ガイダンスの一部を取り込むこと、を意図しています。

提案された定義は、以下のとおりです。

「情報は、それを省略したり、誤表示したり覆い隠したりしたときに、特定の報告企業の一般目的財務諸表の主要な利用者が当該財務諸表に基づいて行う意思決定に影響を与えると合理的に予想し得る場合には、重要性がある。」

また本公開草案は、財務諸表の提供先である「一般目的財務諸表の主要な利用者」の意味も明確にしています。すなわち、「一般目的財務諸表の主要な利用者」を、事業および経済活動についての合理的な知識を有し、情報を入念に検討し分析する「現在および潜在的な投資者、融資者および他の債権者」と定義しています。

本公開草案に対するコメント募集期限は、2018 年 1 月 15 日です。

IFRS 実務記述書 2: 重要性の判断の行使

IASB は、2017 年 9 月 14 日、重要性の判断の行使に関する実務記述書を公表しました。

本実務記述書は、報告企業に対し、IFRS に基づく財務諸表を作成する際の重要性の評価に係るガイダンスを提供することを目的としています。また本実務記述書には、ガイダンスを適用する際に役立つ設例も含まれます。

本実務記述書は、

- ・ 財務報告の概念フレームワークにおける定義と整合した「重要性がある」の定義を使用する。これは、上記で詳しく説明している公開草案の定義と同じ概念に基づく。
- ・ 重要性の判断の行使を、表示と開示、および認識と測定にも関連させて、検討する。
- ・ 企業固有の状況、およびそうした状況において一定の期間にわたり生じうる変化に基づく、重要性の判断の適用について説明する。

- 情報がその他の一般に利用可能な情報にすでに含まれている場合でも、当該情報が財務諸表に対して重要性があるかどうかを評価することを企業に要求する。
- 現地の規制で要求される追加情報の規定を許容するものの、当該情報は重要性のある情報を不明瞭にしない方法で表示しなければならないことを明確化する。
- 重要性の判断のガイドとして、4 ステップ(情報の識別、評価、組成、レビュー)から成る「重要性プロセス」を含む。

本実務記述書は以下にも対応しています。

- 過去の期間の情報:過去の期間からの項目の重要性が当期にどのように評価されるかを検討する。
- 誤謬:誤謬が個別にまたは集約してどのように評価されるのか、および累積的誤謬の影響について、量的および定性的な両方の観点から検討する。
- 財務制限条項:財務制限条項の影響に関して重要性がどのように評価されるのかを説明する。これには(i)制限条項に違反した結果の重要性、および(ii)違反が生じる可能性が含まれる。
- 期中財務報告:分析中の期中財務諸表を含む当期の重要性を検討する。

本実務記述書は、基準ではないため強制されません。監査ガイダンスや重要性に関する特定の地域的なガイダンスを修正するものでもありません。本実務記述書は、強制されませんが、経営者の助けとなることが意図されており、2017年9月14日以後作成される財務諸表から適用可能です。

影響

この「重要性がある」の定義の修正案が財務諸表に重要な影響を及ぼすことは見込まれません。

重要性に関する現地のガイダンスがない場合には、本実務記述書が、経営者が重要性の評価を行う際の追加的な情報および検討事項を提供する可能性があります。しかし、一部の証券規制当局が考える重要性と、本実務記述書が必ずしも整合しないことに留意してください。